

令和4年度（2022年度）生涯学習関連事業評価について

■生涯学習プランの進行と管理

プランに掲げる生涯学習施策を推進するには、教育部門だけではなく、福祉、保健、医療、子ども、環境、産業振興など、さまざまな分野の計画・事業実施所管と連携し、学習、啓発、市民協働の取組を行っていく必要があります。本市では、庁内に「生涯学習推進会議」を設置し、全庁的な体制のもとにプランを推進し、本市における生涯学習社会の実現を目指します。

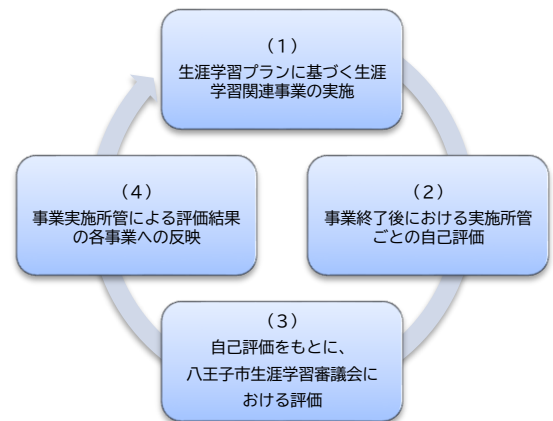
また、市民委員や学識経験者で構成する「生涯学習審議会」を開催し、市民感覚を反映した生涯学習の振興に関する施策の審議、生涯学習に関する施策及び事業の検証と評価を行っています。

■事業の点検と評価

生涯学習関連事業評価は、生涯学習プランの示す「施策の展開」が着実に実現されているかを年度ごとに点検するものであり、全庁の生涯学習関連事業の発展に活用するための見直し・改善のプロセスとして実施します。

また、社会情勢・市民ニーズの変化、国や都の動向に対応しながら、必要に応じて事業の実施内容を見直します。

事業の点検は、市が実施する全事業のうち生涯学習プランに掲載の取組を抽出して行います。



■進捗状況をはかる指標

「生涯学習プラン」の推進にあたり、基本施策ごとに次のとおり指標を設定します。この指標を目安として施策の進捗状況をはかります。

基本施策1 誰もが学べる環境づくり ～まなぶ～		
●指標1 生涯学習活動をしている市民の割合	平成30年度（2018年度） 現状値：52.2%	目標：毎年度、前年度を上回る
○生涯学習の充実度をはかる指標です。より多くの市民が具体的な生涯学習活動を行っていることを目標とします。		
基本施策2 学びから広がる地域づくり ～いかす・つながる～		
●指標2 生涯学習活動の成果を地域活動に活かしている市民の割合	平成30年度（2018年度） 現状値：8.9%	目標：毎年度、前年度を上回る
○生涯学習の成果を地域への還元度をはかる指標です。より多くの市民が、学びの成果をまちづくりの中で活かし、地域や社会の中で活動することを目指します。		
基本施策3 学びを支える基盤づくり		
●指標3 SNSを活用した講座・イベント情報発信し、フェイスブック等の閲覧数	平成30年度（2018年度） 現状値：22,362件	目標：毎年度、前年度を上回る
○生涯学習情報が市民に提供されている状況をはかる指標です。情報発信数とともに閲覧数の増加を目指し、市民の生涯学習活動参加を促します。		

■令和4年度（2022年度）の所管評価の概要

令和4年度(2022年度)は、生涯学習プラン(令和2年度～令和6年度)における5年間の計画期間のうち3年目の位置付けとなります。

所管評価

評価	説明	令和2年度 (2020年度)		令和3年度 (2021年度)		令和4年度 (2022年度)		令和5年度 (2023年度)		令和6年度 (2024年度)	
		事業数	比率	事業数	比率	事業数	比率	事業数	比率	事業数	比率
S	目標以上の成果があった	9件	7%	1件	1%	1件	1%	-	-	-	-
A	計画・目標どおりに達成できた	44件	34%	74件	58%	78件	61%	-	-	-	-
B	計画・目標の一部が達成できなかった	16件	12%	28件	22%	36件	28%	-	-	-	-
C	達成できず困難な課題がある	0件	0%	2件	1%	2件	2%	-	-	-	-
評価なし	感染拡大防止による中止などにより評価なし	60件	47%	23件	18%	10件	8%	-	-	-	-
合計(プラン掲載事業)		129件	100%	128件	100%	127件	100%	-	-	-	-

■令和4年度（2022年度）の進捗状況をはかる指標

指標1 生涯学習活動をしている市民の割合

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
割合	52.2%	57.9%	56.9%	55.7%	55.1%	—
増減		0.057	▲ 0.010	▲ 0.012	▲ 0.006	—

指標2 生涯学習活動の成果を地域活動に活かしている市民の割合

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
割合	8.9%	8.6%	7.1%	6.1%	6.3%	—
増減		▲ 0.003	▲ 0.015	▲ 0.010	0.002	—

指標3 SNSを活用した講座・イベント情報を発信した、フェイスブック、Twitterの閲覧数

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
閲覧数	22,362	413,504	537,056	527,655	379,636	—
増減		391,142	123,552	-9,401	-148,019	—

施策の展開		事業数 (件)	具体的な施策	事業数 (件)
01	子どもの頃から始める生涯の学び	14	001 子どもたちが体験できる機会の充実	5
			002 子どもたちに向けた各種講座・教室の充実	7
			003 青少年の海外交流・都市間交流の実施	2
02	人生100年時代を見据えた多彩な学習機会の充実	21	004 人生を豊かにする多様な講座の提供	3
			005 郷土の歴史や文化財に親しむ	3
			006 文化芸術に触れる	2
			007 読書のまち八王子の推進	7
			008 スポーツ・レクリエーションに親しむ機会の充実	4
			009 社会人の学び直しの支援(リカレント教育)	2
03	共生社会実現に向けた生涯学習の支援	13	010 障害のある人の生涯にわたる多様な学びの支援	6
			011 健康寿命の延伸につながる生涯学習の取組	5
			012 性や国籍にかかわらず社会参画につながる学び	2

■目指す姿

- 子どもたちが家庭の環境によらず、多様な体験活動に参加できている。
- 誰もが、いつでも、どこでも、学べる環境で、生涯にわたり多様な学びに取り組んでいる。
- みんながともに学び、みんなが地域の一員として支えあいながら生涯学習活動に取り組んでいる。

■施策の方向性

- 子どもが大人とともに学びあう機会を充実します。
- 家庭環境によらず、全ての子どもたちが体験活動に参加できるように取り組みます。
- 学びのきっかけづくりや、いつでも学び直せるなど、多様な市民ニーズに対応した学習環境づくりを進めます。
- 共生社会の実現に向けた学習機会を充実します。

■令和4年度(2022年度)取組概要

令和4年度は実施手法を工夫することによって、感染防止対策を施しながら前年度以上に多くの事業を中止することなく実施することができた。

「子どもの頃から始める生涯の学び」について、「2.出張体験講座」では、講座の種類、実施回数ともに令和3年度の実績を大きく上回り、子どもたちが様々な体験を行える機会を充実させた。また「5.八王子浅川水辺の楽校」では、浅川ガサガサ探検隊ほか子どもたちに環境について学習する様々なイベントを提供し、実施回数・参加者共に令和3年度実績を大幅に上回ることができた。さらに「7.青少年講座」では、生涯学習センター3館で22講座を提供し、参加者アンケートでは97.3%という高い満足度を達成した。

「人生100年時代を見据えた多彩な学習機会の充実」について、「34.社会人の学び直し情報の提供」では、令和3年度に公開したアプリ「はちリカ」を東京都が運営する「東京リカレントナビ」と連携させるなどの改善を行った。また「15.市民自由講座」では講座数・受講者共に前年度を上回ったうえで、満足度の目標を達成した。

「共生社会実現に向けた生涯学習の支援」について、「44.高齢者施設読書活動支援」では、感染症予防のため一部事業を縮小したが、施設入居者のリクエストに応じたほか、読書意欲の向上や生活機能の維持に役立つ本を選定し貸出しを行うことで、身近に読書に親しめる環境の整備を行った。

■令和4年度(2022年度)生涯学習審議会評価

- ▶八王子市の生涯学習事業は子ども向けの事業が非常に幅広く、自然体験教室・海外や姉妹都市との交流事業・科学系講座等、多種多様な事業があるのが特徴的であり、コロナウイルス感染防止対策をしつつ対面実施しており、評価できる。
- ▶放課後児童支援課の「2.出張体験講座」について実施した学校からは好評であるが、毎年希望する学校が似ている傾向があるため、もっと多くの学校へ幅広くPRすべきである。
- ▶「5.八王子浅川水辺の楽校」は参加者が多く、環境教育として大いに役立つ事業であるため、継続して実施してほしい。
- ▶「18.郷土資料館講座・体験学習」「19.文化財見て歩き」は目標値以上の成果を上げており、郷土の歴史を通して郷土愛を深める機会として、もっとPRしてもよい。
- ▶「23.乳幼児の読書活動支援」は「おはなし会」と「ブックスタート事業」があり、おはなし会は感染拡大防止をしつつ対面実施し、目標値を大幅に上回った。一方で、ブックスタート事業は実施方法を変更しブックスタートセット配布のみとなった。ブックスタート事業もおはなし会と同様に市民ニーズを感じるため、令和5年度から読み聞かせも合わせた対面実施となることを期待する。
- ▶図書館では「25.地域の学校との連携活動」「26.八王子千人塾」「28.新たな読書空間“パークライブラリー”」「44.高齢者施設読書活動支援」など、幅広い年齢層に訴求する事業を展開し、市民の読書活動の充実に寄与している。その中でも「44.高齢者施設読書活動支援」は、高齢者入居施設へ図書の出張貸出や団体貸出を通じて高齢者の読書機会の創出に努めており、この姿勢は高く評価できる。

このほか、障害のある方に対して点字図書や録音図書の郵送貸出や自宅への宅配貸出を行ったり、外国語話者に対し各国語の資料の所蔵やおはなし会の実施など、共生社会の実現を目指した事業を実施していることを評価する。こうしたサービスがより普及するよう一層の周知に取り組まれない。
- ▶「27.図書館おすすめの“ぶっくぱっく”」「29.非来館型サービスの拡充」は、今後のアフターコロナを考慮すると、利用者数以外の評価指標も検討すべきである。

施策の展開		事業数 (件)	具体的な施策		事業数 (件)
04	学校、家庭、地域で支える子どもの育ち	11	013	地域全体で子どもの育ちを支える	4
			014	学校と地域との連携・協働による生涯学習活動	4
			015	子育て世代がつながるきっかけづくり	3
05	地域を豊かにする学びの還元	18	016	地域での活動のきっかけづくり	5
			017	地域で活躍するボランティアの養成・支援	8
			018	地域の課題解決につながる学びの提供	5
06	学びをいかし、みんながつながる環境の充実	15	019	学習成果の発表と学びの広がり	10
			020	日頃の成果の発揮と学ぶ意欲の醸成	5
07	高校生・大学生等、若者が活躍できる機会の充実	13	021	高校生・大学生等と地域がつながる、地域でいかす	9
			022	若者の社会的自立に向けた、学びによる支援	4

■目指す姿

- 全ての子どもたちの健やかな育ちを地域で支えている。
- 学びが個人にとどまらず、社会や地域での活動に活かされ、人と人との交流が新たな学びにつながり、学習成果が循環している。
- 大学生等が地域で活躍できる機会が充実し、大学生等と地域が高めあって、協働している。

■施策の方向性

- 地域で子どもと子育て家庭を応援できるよう、家庭教育の啓発を図ります。
- 子育てについて悩みがある保護者や、保護者同士、学校の先生との接し方について分からないことを相談する機会をつくります。
- より多くの人々が保護者を支援する活動ができるよう、保護者同士や地域をつなぐ人材育成を図ります。
- 市民団体等との協働によるイベントの実施を通じ、市民が学習成果を発表する機会や、地域で活躍できる機会を拡充させ、市民交流を促します。
- 生涯学習を通じて得た知識や経験が、社会や地域での活動に活かされるよう、ボランティアや指導者の育成、イベントの実施を通じて市民のネットワークづくりを支援します。
- 学園都市である本市の強みを活かし、大学・短期大学・高等専門学校と学生、地域の人とのつながりを促します。

■令和4年度(2022年度) 取組概要

「学校、家庭、地域で支える子どもの育ち」について、「56. 放課後子ども教室」では、感染症対策のため、活動内容を一部縮小したが、実施日数を拡大し、目標を大きく上回る延べ84万人以上の利用があった。また「57. 放課後子ども教室と学童保育所との連携拡大」は、連携推進委員の配置、放課後子ども教室に参加する児童及び学童保育所の児童が参加できるスポーツプログラム事業の新たな創設により、放課後の児童の居場所づくりを一体的に推進した。

「地域を豊かにする学びの還元」について、「68. 学校図書館ボランティア研修会」は、目標としている参加者数に及ばなかったものの、講座参加者から非常に高い評価（評価平均値：3.79/4点）を得るとともに、令和3年度より大幅に参加者が増えており、学校図書館の環境整備及び読書活動の推進に必要な技術及び知識の習得を推進した。

「学びをいかし、みんながつながる環境の充実」について、「79. 生涯学習フェスティバル」では、3年ぶりに会場開催を実現し、新しい生活様式の中で市民交流の場を提供した。同様に「81. 市民センターまつり」、「82. 南大沢総合センターまつり・川口やまゆり館まつり」でもそれぞれの施設で行事の再開や参加団体の増が見られ、日ごろの活動成果の発表が行われた。

「高校生・大学生等、若者が活躍できる機会の充実」について、「96. ビッグウエスト学生フェスティバル」、「97. ★学生天国★」では参加団体数の大幅な回復が見られた。また「102. 八王子市内高等学校吹奏楽フェスティバル」は、株式会社ジェイコムとの協力で特別番組を放映し、令和4年度目標を大きく上回る 3,000 名が来場した。「106. クリエイトライブステージ」では、40 歳以下の団体・個人に音楽活動のステージを提供し、8 団体 107 名が出演し、昨年度を上回る 323 名が来館した。

■令和4年度(2022年度)生涯学習審議会評価

▶コロナ禍の影響が残るなか、「56. 放課後子ども教室」等において、地域、学校、家庭、行政が連携しながら子どもの居場所づくりと体験の機会創出を図っている点は非常に高く評価できる。また、「53. 学童保育所」について、待機児童ゼロを維持できていることは素晴らしい。今後は、施設の狭さの解消など、環境整備を含め、保育の質的な部分を充実させてほしい。

▶乳幼児とその保護者を対象にした「58. 子育てひろば」や育児の悩みを共有しあえる「59. 子育て応援ひろば」、茶話会のスタイルを取り入れた「60. 家庭教育支援講座『星とおひさま Fika キャラバン』ワークショップ」など、育児に関する学びあいを通して、つながりづくりの事業が展開されている。子育ての孤立化を未然に防ぎ、地域のなかで親も子どもも成長していくことのできる環境づくりを期待する。また、「50. 家庭教育啓発リーフレット等の配布」については、無関心層へのアプローチが重要である。効果的な周知に努められたい。

▶「68. 学校図書館ボランティア研修会」について、参加者の満足度が高い一方で、参加者が少ない。開催場所も含め、実施形態の工夫を検討されたい。この研修は、学校での読書や調べ学習・学びの機会を支援する学校図書館ボランティアのスキルアップ及び次世代の学校図書館ボランティアの育成になるものであるため、一層の充実が望ましい。

▶「65. 生涯学習コーディネーター養成講座」や「70. 図書館ボランティア等の連携・支援」など、市民の学びをリードしていく人材の発掘や養成に力が入れられており、生涯学習の重層的な条件整備が図られている。行政が直接市民の学びを生み出すだけでなく、市民の学び合いを間接的に支えていく仕掛けとして、コーディネーターやボランティアを育てていく取組は着実に継続してほしい。

▶「75. エコひろばでの環境教育」や「76. クールセンター八王子での省エネ講座」など、自然環境保全に関する市民の意識を高めていく事業が展開された。実施主体と連携しながら、SDGs の枠組みに基づき、学びや学びあいを通じた地域づくりが進んでいくことを望む。

施策の展開		事業数 (件)	具体的な施策		事業数 (件)
08	学びのきっかけとなる情報の提供・学びの提供	11	023	学びへの新たな参加を促す取組	1
			024	生涯学習の相談体制の充実	2
			025	生涯学習機会の情報の発信	8
09	生涯学習環境の整備	11	026	生涯学習環境の充実と活動の場の提供	7
			027	誰もが生涯学習へ参加しやすい環境づくり	3
			028	ICTを活用した生涯学習機会の充実	1

■目指す姿

- 生涯学習情報を広報紙・インターネットなどの複数の媒体で、分かりやすく提供し、市民の生涯学習活動の充実につながっている。
- 生涯学習施設が、市民が気軽に集い、つながれる、学びのきっかけづくりの場として機能している。

■施策の方向性

- 生涯学習を始めたい市民、学習をより深めたい市民、サークル活動やボランティア活動など人とのつながりを求める市民が、必要とする生涯学習情報を分かりやすく入手できるよう、情報提供の環境を充実します。
- 市民が気軽に相談できる環境のほか、専門的な質問に対して、適切な案内と助言を行うことができる人材を養成するなど、相談体制を充実します。
- 身近な場所で、生涯学習活動がしやすいように環境整備を進めます。

■令和4年度(2022年度) 取組概要

各施設で感染対策防止を努めつつ、生涯学習活動の情報発信・環境整備をし、市民の生涯学習活動の支援を継続した。

「学びのきっかけとなる情報の提供・学びの提供」について、生涯学習センターでは「111. SNSによる生涯学習講座・イベント情報の発信」で講座やフリースペースの開催情報を随時情報発信するとともに、市民活動支援センターでは「114. はちコミネット」がリニューアルされ、スマートフォンでも閲覧しやすくするなどの改善を行った。また各所管が定期刊行物による情報発信を着実にを行った。

「生涯学習環境の整備」について、「119. 生涯学習センター」では令和3年度を上回る170,705人が利用し、市民にとって気軽に学習できる場としての役割を果たした。また「121. フリースペース」では自主的な学習支援として空き学習室を開放し、生涯学習センター3館合計で過去最高となる延べ2万5千人以上が利用した。

また、中央図書館の「122. 自習スペースの開放」では、座席制限を解除し、前年度を上回る13,982人が利用した。一方で「129. ICTの活用」では、非来館型のサービスの充実・DX施策の推進として、電子書籍やナクソスミュージックライブラリといった既存のサービスに加え、令和4年9月から電子申請を用いたオンラインリクエストサービスを開始しており、場所を問わない形での生涯学習活動の充実を図った。

■令和4年度(2022年度)生涯学習審議会評価

- ▶情報発信について、DX が進展していくことから、紙媒体での発信を有効活用するとともに、ICT の活用を推進してほしい。SNS を活用し、各自のニーズにあわせたきめ細やかな情報提供を試みている点は評価できる。
- ▶フリースペース等の提供は、自己実現の支援という観点で重要な取組である。延べ利用者数が増加しており、利用ニーズの大きさがうかがえる。また、引きこもり傾向の方や不登校の方にとっても、気軽に行けるような場所にできるとよい。このような場所が、子ども・若者にとって身近な生活圏域に整備され、十分に周知されていくことを期待する。
- ▶「124.八王子駅南口集いの拠点整備事業」は、学習・交流機能と図書館の閲覧機能を併せ持つことから、八王子市がこれまで大切にしてきた生涯学習の視点や理念をしっかりと組み込んだ施設となっていくよう、デザインのプロセスにおいても一層の連携を進められたい。
- ▶「129.図書館事業における ICT の活用」について、学校と連携して、子どもたちが学習用端末で電子書籍を活用できる環境づくりを進めている点は評価できる。加えて、ナクソスミュージックライブラリ、オンラインリクエストサービスなど、利用者のニーズに合ったサービスを提供できている点もよい。今後も利用者に対して選択肢を増やしていくことが重要である。
- ▶生涯学習関連事業の中でも積極的な ICT の導入を図ることによって、GIGA スクール構想で ICT 化を推進している学校教育との連携が深まることを期待したい。ICT を通した「学社連携」の実現や市内小・中・高等学校等での「社会に開かれた教育課程」の円滑な実施が地域とともに図られるよう、地域側における ICT 活用の推進にも力を入れてほしい。
- ▶図書館事業や情報発信における ICT の活用について、高齢者にも ICT のメリットを感じてもらえるように、サポートを強化する必要がある。生涯学習関連施設をはじめ、より多くの人々が ICT の効用を享受できる仕組みづくりをしてほしい。

令和4年度(2022年度)生涯学習審議会評価

八王子市が生涯学習事業を実施する上で、「新型コロナウイルス流行に対し、どのように活動再開をするか」が課題となったが、各事業が内容の一部変更や、オンライン開催等の工夫により、柔軟に対応した点を高く評価する。一方で、コロナ禍を経験したからこそ、学習における人と人との直接的な交流や、対面コミュニケーションの重要性が再確認された側面もある。これからは状況に応じて対面やオンライン、あるいは両者のハイブリッドなど適切な手法を柔軟に使い分け、効果的な事業展開を図りたい。

また、八王子市は子ども向けの事業が多種多様にあり、「5. 八王子浅川水辺の楽校」「23. 乳幼児の読書活動支援」等の自主的に参加するものや、「2. 出張体験講座」「68. 学校図書館ボランティア研修会」等の学校生活を充実させるもの等、実施内容の幅広さは誇るべきである。

その他にも、生涯学習機会の情報発信も継続しつつ、中央図書館の「122. 自習スペース開放」「129. ICT の活用」を始めとした生涯学習環境の整備にも力を入れており、引き続き市民の生涯学習の機会を提供している点についても高く評価できる。

今後は開催方法だけでなく、参加者の属性・満足度にも着目し、どの層にアプローチすべきか、満足度をどう向上させるか等の取組方法を模索するのもよい。それに伴い、事業によっては参加者数等の量的指標だけでなく、満足度や事業参加後の活用度等の質的指標も取り入れることで、事業見直しすることも検討されたい。

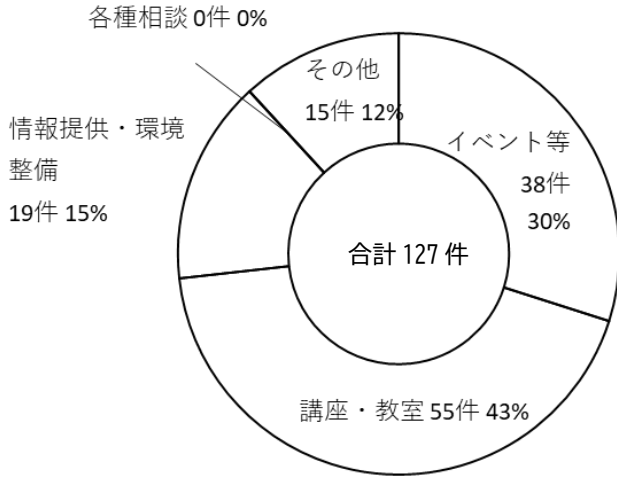
また、生涯学習事業自体を認知していない層への PR 方法や、生活環境で参加が困難である層への実施方法も今後の課題である。その解決策の一つとして ICT での情報発信・事業実施は効果的な方法であるが、一方で ICT 利用を苦手とする層も存在するため、今後も ICT の利用講座を開催することで、地域社会のデジタルリテラシーを向上させることが重要である。ICT 活用以外にも市民ニーズに合わせて開催場所を増やす、変更する等、柔軟に対応することで参加者増加や利便性向上へ繋げてほしい。

令和4年度もコロナ禍の影響があり、令和3年度と比較しても「生涯学習活動をしている市民の割合」がわずかに低下している。令和5年度はアフターコロナの局面であるが、市民にとって生涯学習活動を再開しやすい環境づくりがより重要になるため、これからもコロナ禍で培ったデジタル技術等の創意工夫等、生涯学習機会の創出に今後も柔軟な対応を継続してほしい。そして、より多くの市民が人生100年時代を豊かに生きるために、学びの成果が地域社会へ還元されるような仕組み作りを市民と行政とが手を携え推進することで、生涯学習活動への市民参加が後押しされることを期待する。

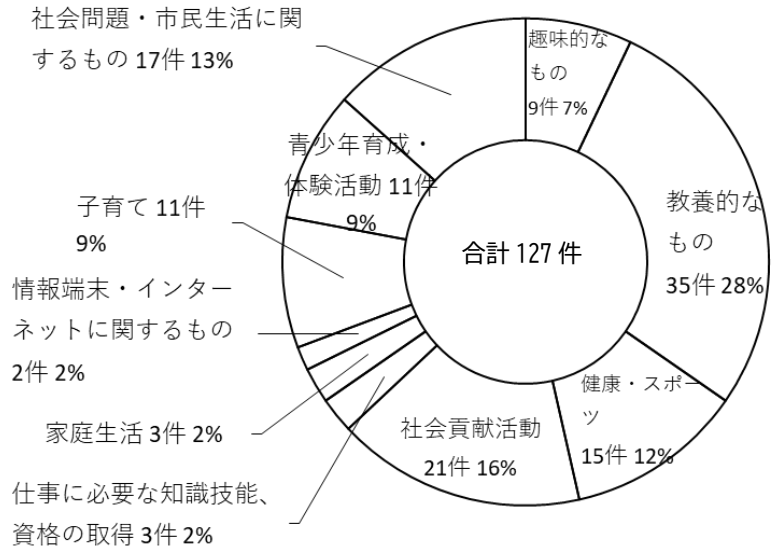
生涯学習関連事業統計グラフ

全体(127件)

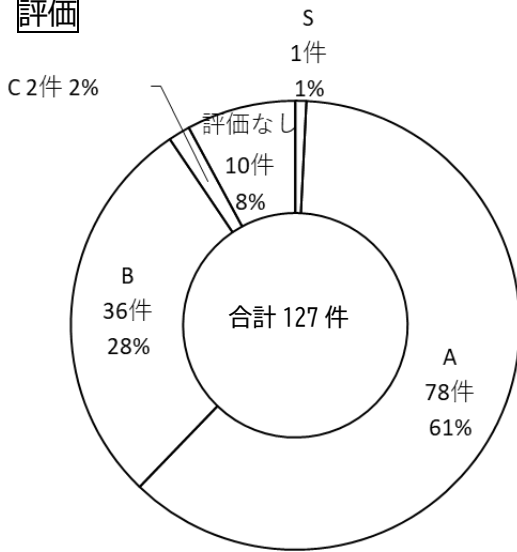
種類



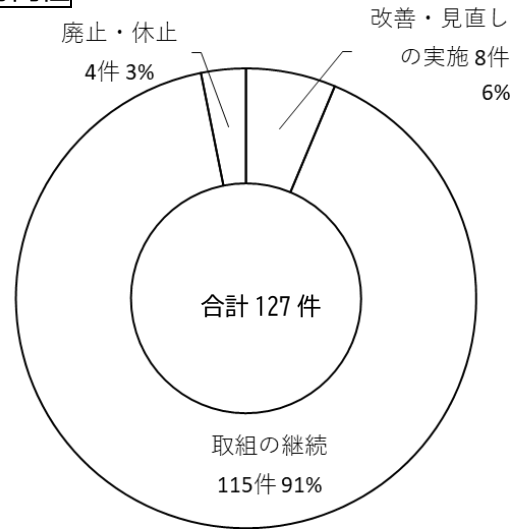
分野



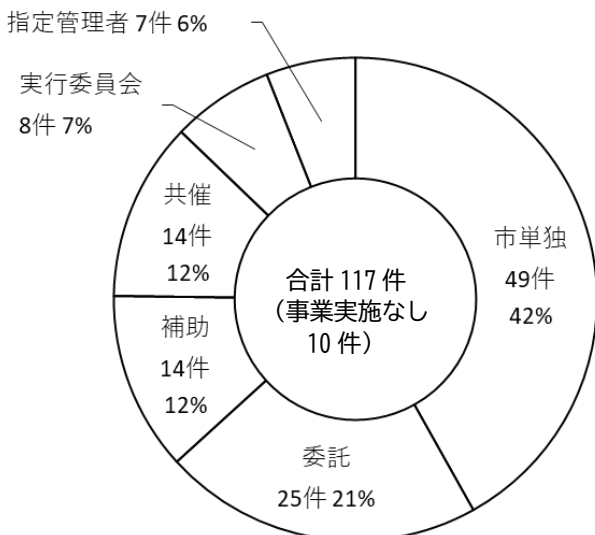
評価



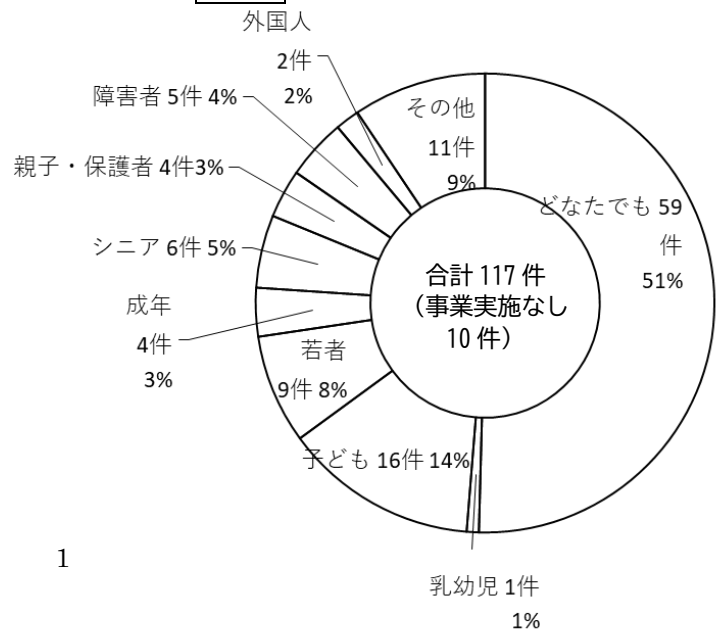
今後の方向性



事業の実施形態



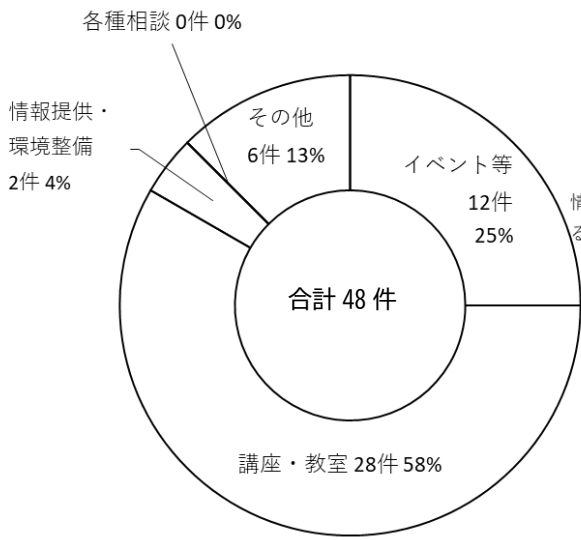
対象者



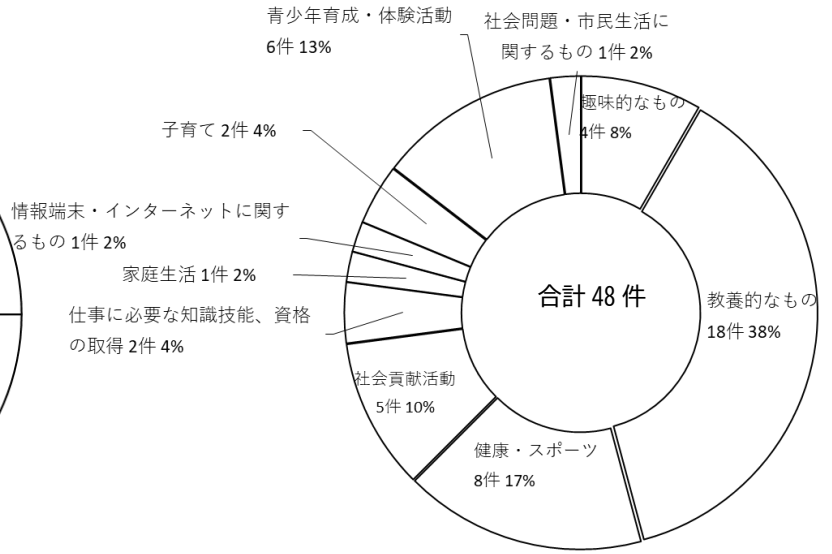
生涯学習関連事業統計グラフ

基本施策1 誰もが学べる環境づくり～まなぶ～(48件)

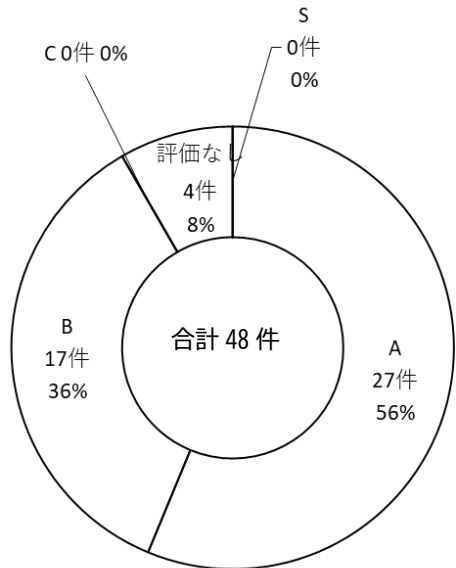
種類



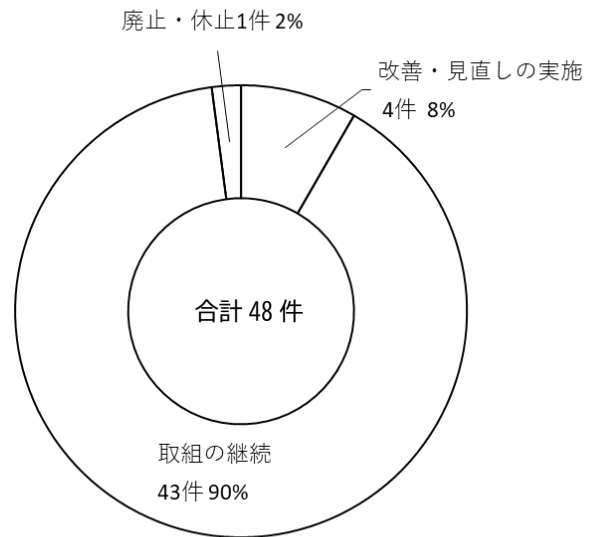
分野



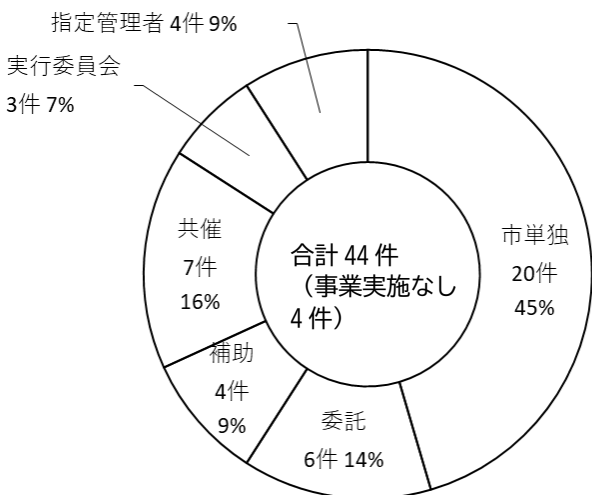
評価



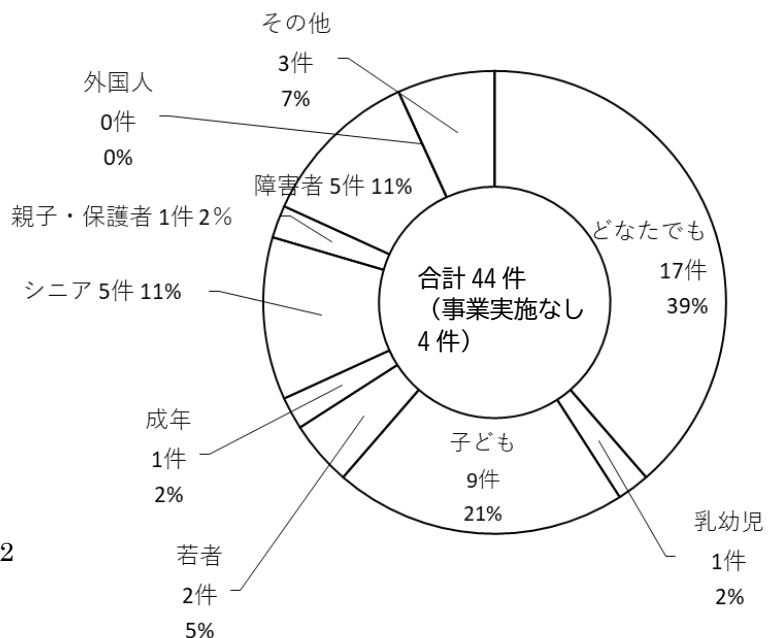
今後の方向性



事業の実施形態



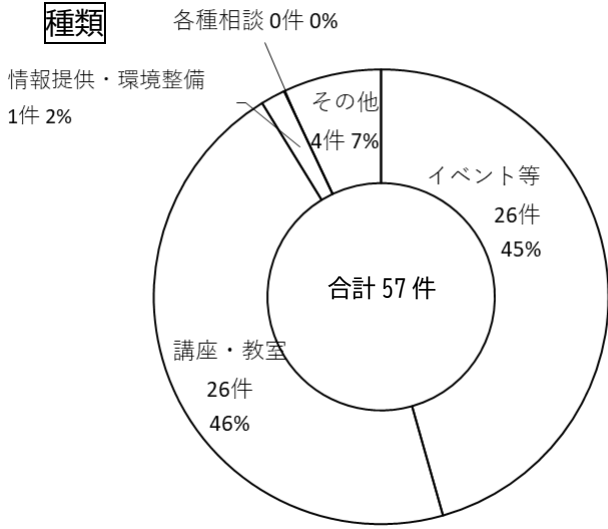
対象者



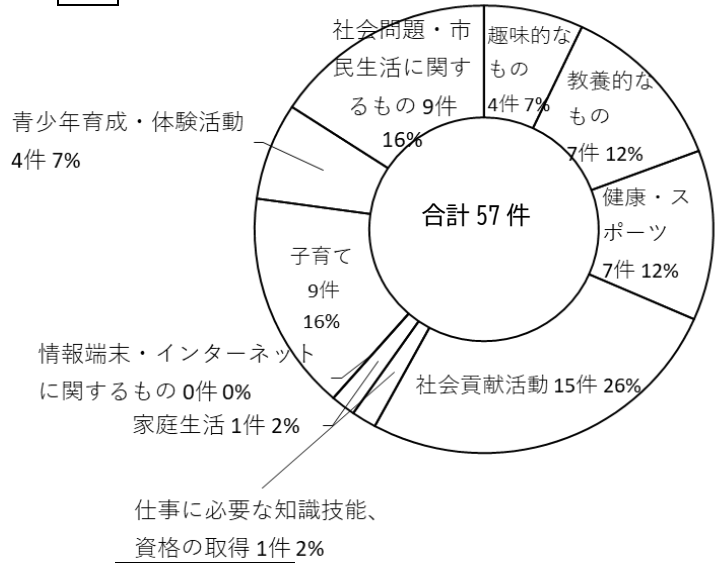
生涯学習関連事業統計グラフ

基本施策2 学びから広がる地域づくり～いかす・つながる～(57件)

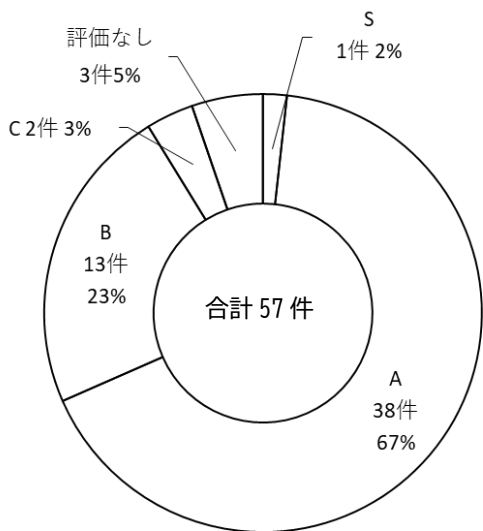
種類



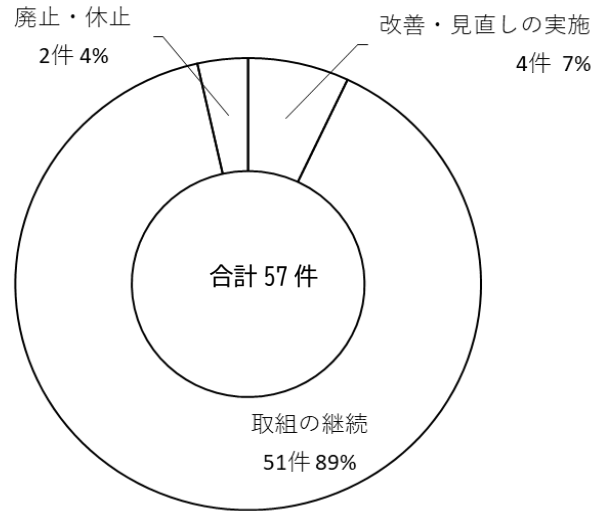
分野



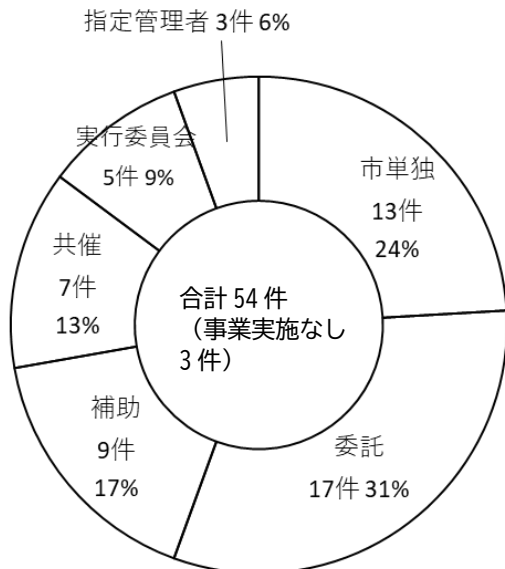
評価



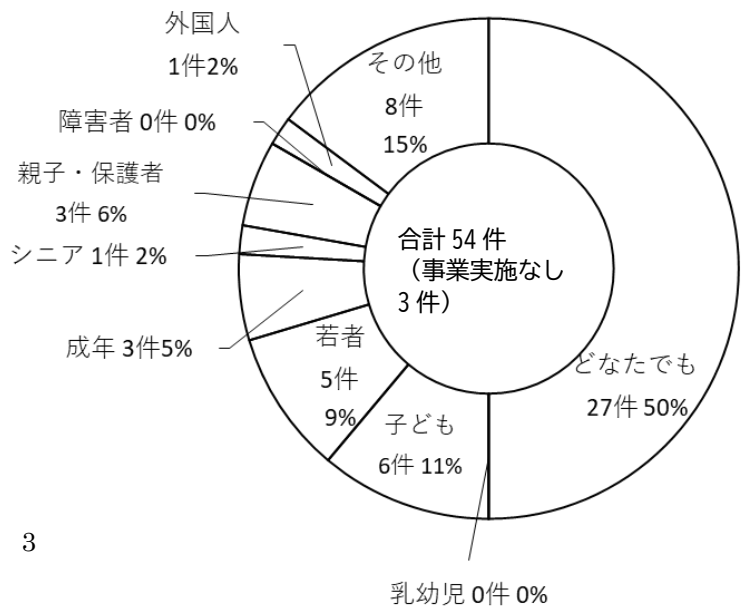
今後の方向性



事業の実施形態



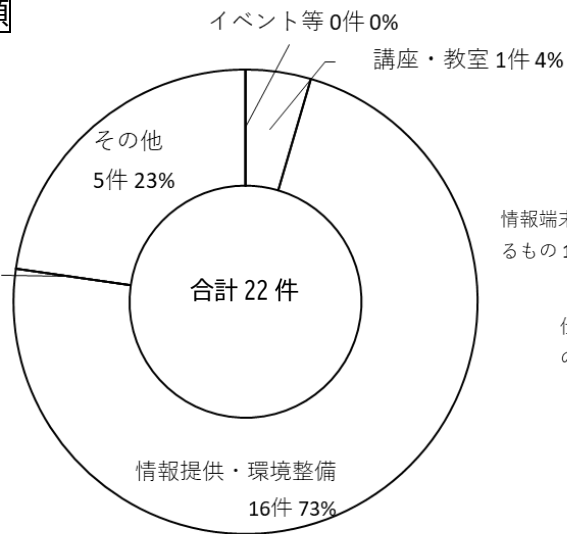
対象者



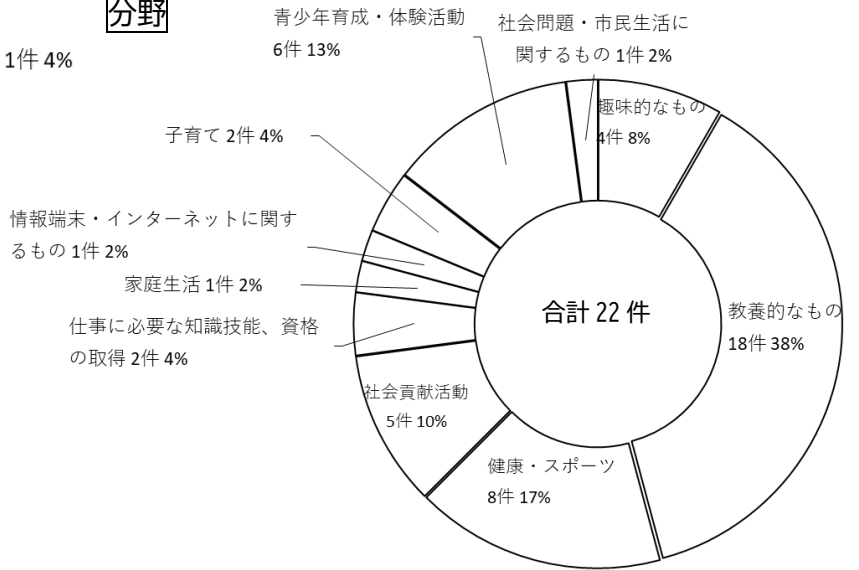
生涯学習関連事業統計グラフ

基本施策3 学びを支える基盤づくり(22件)

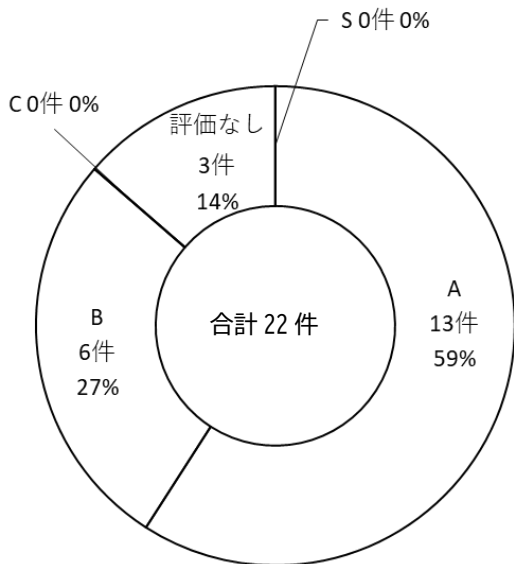
種類



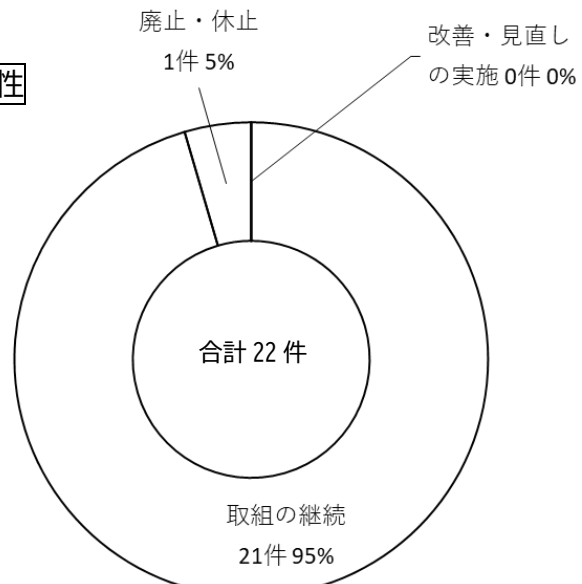
分野



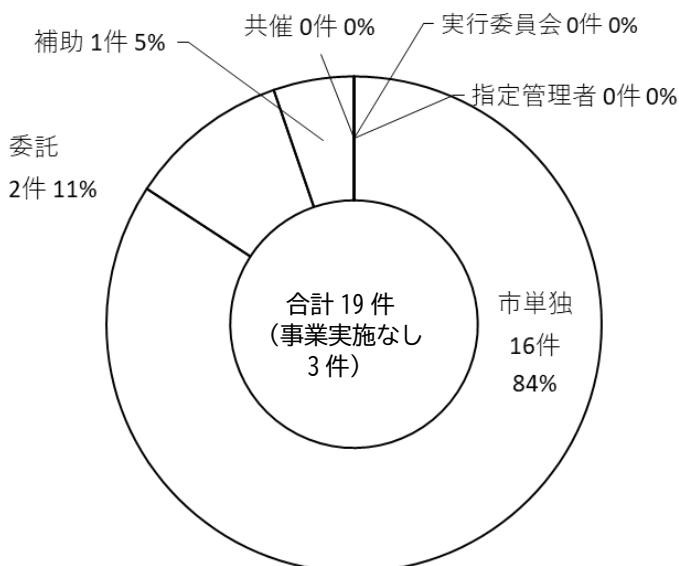
評価



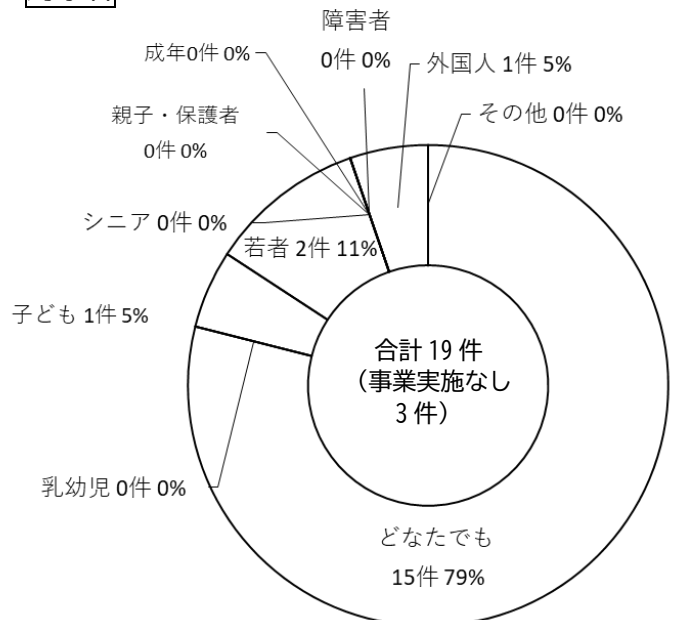
今後の方向性



事業の実施形態



対象者

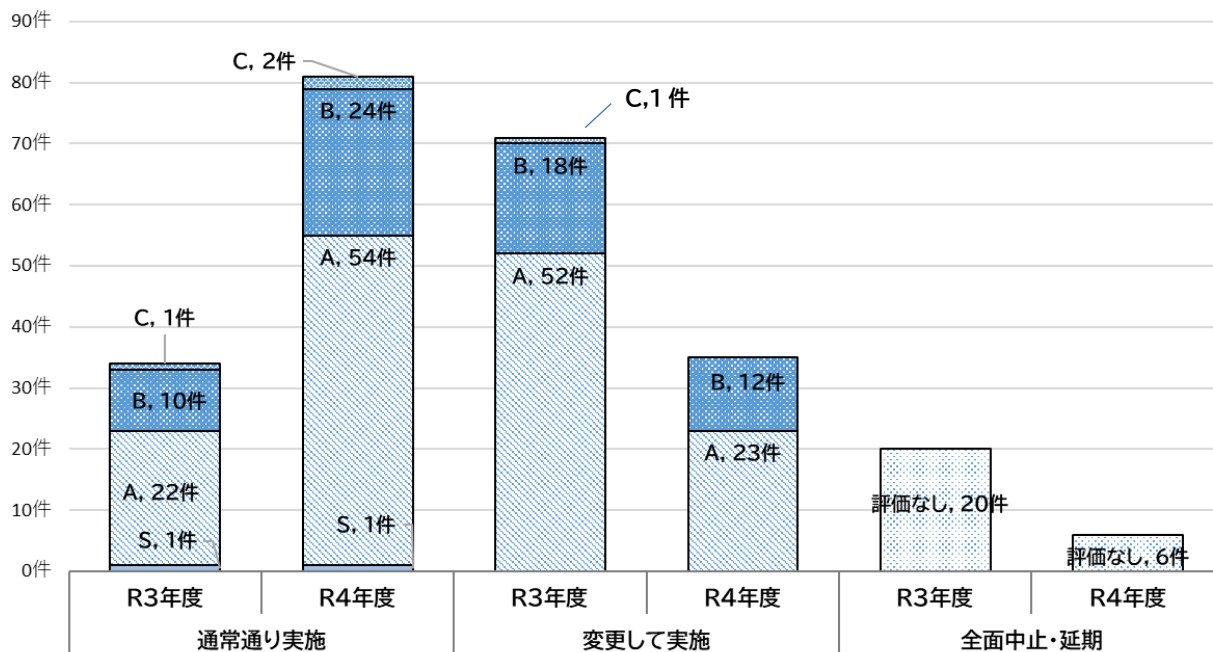


生涯学習関連事業統計グラフ

感染症による影響

新型コロナの影響(令和3年度・4年度比較)

評価	総数		通常通り実施		変更して実施		全面中止・延期		— (該当なし)	
	R3年度	R4年度	R3年度	R4年度	R3年度	R4年度	R3年度	R4年度	R3年度	R4年度
S	1件	1件	1件	1件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
A	74件	78件	22件	54件	52件	23件	0件	0件	0件	1件
B	28件	36件	10件	24件	18件	12件	0件	0件	0件	0件
C	2件	2件	1件	2件	1件	0件	0件	0件	0件	0件
評価なし	23件	10件	0件	0件	0件	0件	20件	6件	3件	4件
合計	128件	127件	34件	81件	71件	35件	20件	6件	3件	5件



生涯学習関連事業統計グラフ

オンライン実施状況

令和4年度	総数	実施方法			該当なし
		対面実施	オンライン実施	どちらも実施	
評価					—
S	1件	1件	0件	0件	0件
A	78件	58件	2件	7件	11件
B	36件	27件	2件	5件	2件
C	2件	2件	0件	0件	0件
評価なし	10件	0件	0件	0件	10件
合計	127件	88件	4件	12件	23件

